

第 2 回有識者検討会（R4. 11. 1）における主な意見と対応状況

議論のポイントに係る意見

	主な意見	対応状況
1	<p>素案 1 ページの「方針改訂のポイント」で、「安全な暮らしを支える」の後に、道民の暮らしが「より豊かに」なるような視点が良かった方がよい。</p> <p>また、人口減少とか感染症は、実際に対応せざるを得ないものだが、「デジタル化」はこれらの要因を解消するためのツールとして推進しているものという意味で、並列ではない表現にできたら良いのではないかと。</p>	修正しました（原案 P1）
2	<p>素案 19 ページの「地域全体の最適化」で、単年度のものではなく、これから人口減少していく中で「長期的にも考えられる最適化」という意味で、「長期」もしくは「持続的」な文言を入れてはどうか。また、資料 2 の⑥にある「ストック効果の最大化と多目的・多機能化」が、まさに、今回加える視点だと思うので、最後の 2 行ところに「ストック効果の最大化、多目的化・多機能化」を入れてまとめるとメッセージは伝えやすいのでは。</p>	修正しました（原案 P19）
3	<p>素案 43 ページ別表 1 集計表は大変重要。これを基に議論しているが、この集計表が一人歩きしても大丈夫なよう記載の内容を精査して欲しい。</p>	精査し一部修正しました（原案 P43）

物流に係る意見

	主な意見	対応状況
4	<p>食料やエネルギーの安全保障について、生産自体を充実させることも重要だが、その産物をどのように滞りなく運んで、消費者に届けるかということも重要で、そのために<u>物流を充実させる必要がある</u>。物流関連の社会資本として道路や港湾、空港、鉄道などがあるが、それにどう優先順位をつけるかが重要だと思う。</p>	物流について原案 P14 に追記しました
5	<p>物流の問題について、<u>物流機能の強化を社会資本整備の重点化というスキームの中で、どのように受けとめて行くのかも大事だ</u>と思う。社会資本整備というのは器づくりであるが、ただ器だけがあってもダメで、そこにおいしい料理が盛られて生きるもの。経済活性化のために器をどう使っていけば良いかという議論も併せて進めていくことが、総合計画の目的を達成するための議論としては大切。だから、先程の多目的・多機能にも通ずる部分があり、例えば、観光消費を高めるインフラは何かというと全てに関わる。つまり、色々な切り口と多次元的な議論が求められていて、それを二次元の平面的な議論に整理してしまうと、そこが浮かび上がってこない。横断的、多次元整理は難しさはあるが、道の政策に関わっている方の腕の見せ所でもある。問題提起として受けとめていただきたい。</p>	物流について原案 P14 に追記しました

安全保障（防衛）の観点に係る意見

	主な意見	対応状況
6	最近、国の有識者会議で、国防とインフラに関する議論が行われている。北海道は国境に接していることが特徴的で、本方針が <u>北方領土隣接地域の振興</u> を最優先施策に位置付けているように、国境に近いからこそ、安全保障をも見据えたインフラ整備が重要になるのではないか。その際、平常時でも非常時でも使えるインフラ、という視点があっても良いと思う。	北方領土・隣接地域について原案 P26 に追記しました。
7	防衛について、今の国際情勢のこの危機的な状況の中で、 <u>緊張感を伝えていくことが大事</u> ではないか。例えば、我が国が有事になった場合の首都機能のBCPのような発想で、バックアップ機能としての北海道の役割を強化していくという視点で、社会資本整備を考えていくということは、結果的には平時において、道民にとっても有益なインフラ整備にも繋がっていくことになるのではないか。	ウクライナの侵略等を原案 P10 に追加しました。
8	防衛という言葉の本編に入れることはなかなか難しいが、議論をしたことは、 <u>何らかの形で残しておかなければならない</u> と思う。 総合計画の改訂では、道民の方に一枚だけを読んで大体の議論の内容をわかしてもらおうよう、委員長名でメッセージ文を作った。もしかするとそういう方法もあるかもしれない。 まさに今のウクライナの状況など、 <u>事実はしっかり書いたほうがいい</u> 。そこから国境を接したエリアとか、紛争がどういう形で経済に影響を与えているのか表現できるとよい。	巻末に検討会での主な議論を掲載します。 ウクライナの侵略等を原案 P10 に追加しました。 北方領土・隣接地域について原案 P26 に追記しました。
9	社会資本整備に関しては、時代とともにその役割も変わっているし、目的も随分変わってきている。今の国防に関するこの検討会での議論は象徴的で、なかなか本文に書きづらい意見や考え方はあるが、委員の発言にもあったように次の議論に繋いでいくためには、議事録のほかに「はじめに」や「おわりに」でもいいし、 <u>何らかの形で残しておくことが大事</u> 。	巻末に検討会での主な議論を掲載します。

方針の推進に係る意見

	主な意見	対応状況
10	本方針をしっかりと推進していくため、 <u>実効性を伴うものにしていくことが重要</u> 。社会資本は本当に多岐にわたっていて、横断的なものもあるので、今後も庁内横断的に検討していただければ良い。	今後とも庁内横断的に設置している社会資本整備推進会議や検討チームで検討、推進していきます。
11	方針の運用について、横の連携に加えて、 <u>実際に事業を実施する現場の方々にも、何を重点化したいからこの事業をやるのかというところを共有</u> していければ、みんなが同じ目的で進んでいけるのではないか。	地域説明会で、振興局担当者も含め方針素案の説明、意見照会を行っている。今後とも周知に努めていきます。

その他意見

	主な意見	対応状況
12	<p>前回は提起したが、<u>人口減少の問題</u>が言われ続けながらも、出生率が上がらないどころかコロナによって急速に出生率が低下していくという危機的な状況である。人口が減ってくると提供する政府部門の供給力が、特に自治体では弱くなっていく。人口減少時代の社会資本整備のあり方をどう考えていくのか、改めてこの重点化という政策の議論の中でも、そこを自覚的に議論していくことが大事。</p>	<p>人口減少時代の社会資本整備について、今後とも自覚的に議論していきます。</p>
13	<p><u>地域意見</u>について、最初の重点化プランの時代から振り返ってみると、地域の声として直接住民の声を聞いて重点化を考えていこうというアプローチをした。それがこの政策の一つの特徴でもあるので、市町村等の意見聴取について、単に「素案についてどう思うか」と聞くだけでなく、うまく深層の意見をくみ取る工夫をするなどプロセスを丁寧に進めること。</p>	<p>市町村が深層の意見を出せるよう、意見照会と別にアンケート調査を実施しました。参考資料4</p>
14	<p><u>多目的・多機能</u>というのが、この検討会の中では一つの大事なキーワードになっている。素案19ページに遊水地が例として書かれているが、日本の遊水地の歴史は結構古い。以前に見た上野の遊水地は、普段は農地で使われていて、遊水地という社会的インフラと優良な農地の両方がしっかり共存している。これからは、より有効な利用を常に心がけながら、多様に使っていくという、まさに commons 的な、共生的な視点で社会資本の活用を考えていくことが大事。最適化の視点が、長期的には重点化にも繋がっていく。そういった議論に繋がる<u>具体的な展開事例</u>があれば良い。</p>	<p>多目的・多機能な事例を庁内及び市町村に調査しました。参考資料5</p>

など